

PARK NEWS MAGAZINE

Vol.003 2023.February

みんな  
の公園  
愛護会



公園ボランティア 実態調査 2022

A Talk in the Park 03

スマイルパークこわだ (茅ヶ崎市)

「スマートフォンで自治体との連携プレーが円滑に」

# 公園ボランティア活動を応援する 『みんなの公園愛護会』です

暮らしのそばにある、小さな公園を  
守り育てている公園ボランティア。

私たち「みんなの公園愛護会」は

そんな公園ボランティアを

応援・サポートする非営利型一般社団法人です。

今年は、公園ボランティアの活動の  
ヒントとなる知恵や工夫について

多くのアイデアを集めるアンケート調査をしました。

各地の公園ボランティア活動の取材も

継続して実施しています。

改めて見えてきたことは、楽しくやることの大切さ。  
楽しいから、続けられるし、仲間も増えるんですね。





私も、自分の暮らす街で友人や子どもたちと一緒に公園ボランティア活動をしていますが

みんなで楽しくやるから、喜びもあるし、続けられそうです。

皆さんの活動の中で生まれた知恵や工夫は大変な作業が少しでもラクになり

より充実した活動を続けられるよう、情報を共有していきます。

アンケートや取材で得られた情報や知見を

国や自治体など公園を整備し管理する専門家の方々へ

情報提供する機会も増えてきました。

地域の小さな公園は、公園ボランティアの皆さんのおかげでこの冊子も3号目。多くの皆さんのご協力のおかげでこの冊子も3号目。

今号は、ひとつつの公園での春夏秋冬、そして年月を経てもなお地域の人たちに愛され続ける公園の風景を描いています。

公園ボランティア活動を楽しんでいた少年が

大人になってまた公園に帰ってきたようですね。

# スマートフォンで自治体との連携プレーが円滑に



スマイルパークこわだ愛護会とは  
小学校の横にある公園で、芝生の管理や花壇づくりのほか、  
地域の人々が憩い、子どもたちが安心して遊べるようさまざまな工夫をしている。  
設立10年記念に愛護会Tシャツを作り、やる気もアップ。

## A Talk in the Park 03 @スマイルパークこわだ(茅ヶ崎市)

### スマホで便利に コミュニケーション

今回の『A Talk in the Park』

では、スマートフォンを使って楽しく公園ボランティアの活動報告をしている事例として、茅ヶ崎市にあるスマイルパークこわだ愛護会に注目します。

スマホを使ってどんなコミュニケーションをしているのか、愛護会と自治体担当者それぞれにどんな変化があったのかな

ど、スマイルパークこわだ愛護会代表の零石剛さんと茅ヶ崎市公園緑地課の姫野智博さんに、「みんなの公園愛護会」代表の桝田里佳がお話をお聞きしました。

**桝田** 茅ヶ崎市では公園愛護

会の活動充実化のために PARKFUL Watch (パークフルウォッチ) のサービスを利用しているんですよね。

**姫野さん** はい。公園愛護会

トークゲスト

茅ヶ崎市公園緑地課  
姫野智博さん

トークゲスト

スマイルパークこわだ愛護会  
零石剛さん

いますよ。市役所からの連絡が来るとメールが届くから、ア

うのが市としてはありました。

話ではうまく伝わらないことあるので。

やりたい人からどんどん始めてもらっています(姫野さん)

プリを開いて、確認しています。

姫野さん 自治体側では、パ

ソコンの画面で市内の愛護会

から投稿された活動の様子が見られ、ゴミ回収や剪定依頼などの連絡も写真つきで届く

ので、外に出ることも多い公園緑地課の業務とうまく並行しながら、効率的に取り組めています。



#### ※PARKFUL Watchとは

公園情報アプリ PARKFUL が提供する公園維持活動のオンライン報告ツールで、扱い手団体はスマートフォンのアプリから日々の活動を報告や発信し、自治体はパソコンからの活動が見えるサービス。

## 登録スタートは、手を上げた団体から

との「ハニケーション」や、愛

護会活動を地域の人にもつと知つてもらうために利用しています。

桝田 初めはどのようにス

タートしたのでしょうか?

姫野さん まずは愛護会全体

に案内して、手を上げた愛護

会から導入という手法にしま

した。まだ紙がいい、一丁で効率化を図った方がいいなど、いろんな人がいるので、どちらかに寄るのでなく、どちらでも選べる体制をつくりたいとい

ます。ゴミの回収依頼など市

役所への連絡も、「これでやつて

年1回切つてもらっているんですが、端だけは伸びると見通しが悪くなつて、危ないから「この切つて」と写真で送つて、切つてもらつたんですよ。

## 簡単に一日瞭然

雪石さん この公園の生垣も

桝田 使い始めて1年半経つて、いかがですか?

雪石さん 市役所との連絡が一番便利になりましたね。電話だと不在の時もあるけど、これで送つておけば、見てく

れるから。見たら、確認しました」のチェックも入るし、安心ですよ。活動中に作業の風景を撮つて、公園からそのまま投稿することもあります。家で送る時もあるし、どこでも使えるからね。

桝田 本當だ、公園の隅の部

分だけスッキリしてます。こ

桝田 本当に、この公園の生垣も

雪石さん これが、この公園の隅の部

分だけスッキリしてます。こ



他の公園の様子もいろいろ  
見てみたいなあ(雪石さん)

公園の未来を話し合う機会が  
増えるのはいいですね(桝田)



ういう危険が潜む所に目を配るって大事ですね。



零石さん 写真を撮つてポン

と送れるから。これは便利です。

姫野さん 紙で写真を貼り付

けて、文章を書いて、要望書

のような書類にして持つてき  
てくださる方もいますが、  
PARKFUL Watchがあれば、  
アプリ操作だけで、わざわざ

市役所に出向いてもらう必要

もなくなり、愛護会さんにとって  
ても、手間が省略できると思

桃田 効率化できる部分はテ  
クノロジーに頼つて、空いた時  
間とエネルギーを、公園の未  
来を一緒に考え方話し合つことに  
使えたら、とってもいいですね。

## 愛護会メンバー間の 連絡もLINEを活用

零石さん 愛護会内ではグ

ループLINEを使っていま  
す。「雨だから今日は中止だ  
よ」とか、連絡が便利になり

ましたね。それまでは電話の  
連絡網だったから、誰かがいな

もつともつと仲間が  
増えたら面白い

います。アプリが間に入つて、  
いろいろと事務を簡素化して  
くれていると感じています。  
役所内でも、これまで「ゴミ回  
収の電話を受けたら地図に落  
とし込んで担当職員に伝えて  
回収していましたが、みなさ  
んが送つてくれた写真と「メン  
ト」をプリントしてそのまま渡  
すようになり、効率的になり  
ました。



姫野さん そうですね、もつ  
ともつと使う人が増えてほし  
いですね。講習会で実際使っ  
ている人の事例紹介をするな  
ど、他の愛護会にも広げてい  
たいですね。

桃田 普段の作業として、芝生や花壇の手入れをす  
る姿や皇帝ダリアの成長記録  
も公開投稿しています。愛護  
会活動をする姿を出している  
人はまだ少ないので、もっと

見たいですね。  
零石さん そうですね、もつ  
ともつと使う人が増えてほし  
いですね。講習会で実際使っ  
ている人の事例紹介をするな  
ど、他の愛護会にも広げてい  
たいですね。使う人が増えれ  
ばいろんな意見が出ると思う  
ので、そういう活発な環境  
がどんどんできていけばいいな  
と思います。

桃田 今回お話を伺つて、愛  
護会と自治体の「ゴミニケー  
ション」の大切さを改めて感じ  
ました。両者の日々の連携プ  
レーが、良い公園をつくつてい  
くのです。これからも皆さ  
んの活動を応援します。

姫野さん 将来的には、地域  
の祭りなどイベントの告知も  
できるといいですね。

零石さん 年度末に提出して  
いたたく活動報告書も、アプ  
リからの電子化対応ができる  
らしいですね。報告書の作成



# 公園愛護会“みんな”のコメント

草取りをしながらだと、心が開けて、いろんな話ができるのが楽しいです。

一番の喜びは、地域とのつながりを持てたこと。

高齢化により、暑い時期や寒い時期の活動が厳しい。

公園が子育てインフラとして重要な役割を担っていると日々感じます。植物、特に花を見て、一緒にきれいだねと言いあえるのは素敵です。

公園掃除でも、人とつながれるんだなと感じます。普段は忙しく会えない人と、公園掃除があるから連絡が取れたり会えたりします。

他にもゴミを拾ってくれている人がいた!!

道行く住民からも「ご苦労様、キレイになりましたね」等の言葉が聞かれ、花を育て、緑を守る活動は、確実に市民権を得てきた。住民意識の改革・変革を促すものであり、地道に活動を続けることが大切だと思っている。

重要なのは「やらされてる感のない活動」だと思っています。できる人が、できることを、できる範囲で。

先代から愛護会活動を引き継いだのですが、活動に参加している小学生の女の子が、「大人になったら、今度は私がバトンを受け継ぐからね!」と言ってくれたこと。とてもうれしい出来事でした。

犬のフンに困っています。弁当はそのまま、たばこのマナー。ペットボトル、酒のカンパン、そのまま。

## みんなの公園愛護活動レポート



平和町第二公園  
(茅ヶ崎市)

愛護会結成3年。草木が生い茂る公園が、桜を囲んでみんなが集まる地域に愛される公園に再生。



五郎兵衛コミュニティーパーク  
(茅ヶ崎市)

野菜も米も電気も作る地域のオアシス。子供からプロの農家まで活動する自給自足公園。

## 他にもWEBサイトで公開中!



一之江フレンド公園  
(江戸川区)

地域貢献として地域の郵便局長がボランティアで清掃活動中。ビブスとバンダナもお揃い!



南長崎はらっぱ公園  
(豊島区)

毎週水曜の定期清掃日には、地域の社会福祉法人から障がい者の皆さんも参加して活動中!



東小橋北公園  
(大阪市)

25年続くゴミ清掃活動。継続の秘訣は地域の人々との楽しいおしゃべりの場であること。



黎明橋公園  
(中央区)

芝生育てを通じて育む地域のつながり。その名も「イクシバ!プロジェクト」。楽しく続けるヒントが満載。

## 公園愛護会“みんな”的活動の様子や楽しいひとときを募集しています!



WEBサイト  
[www.park-friends.org](http://www.park-friends.org)



LINE公式  
みんなの公園愛護会  
友だち登録はこちらから!

みんなの公園愛護会では、公園ボランティア活動をされている皆さんの活動事例をWEBサイトで紹介しています。みんなの活動のヒントなど、LINE公式アカウントで発信しています。ぜひ、みんなの公園愛護会をLINEで友だち登録してください。

# みんなどう考え、どうしてる？ データで検証、公園愛護会の今。

## 公園ボランティア実態調査2022

この実態調査は、2022年7月から11月に全国の自治体と  
2,559の公園愛護会等ボランティア団体の皆さんにご協力をいただき実施しました。  
さらに詳しい調査結果の完全版をホームページでも公開しています。  
右記QRコードよりご確認いただけますので、皆さんの活動のヒントとして、ぜひご活用ください。

全国自治体編

公園  
ボランティア編



### 全国自治体編



公園愛護会、公園アダプトほか、さまざまな制度で行われている

市民の公園ボランティアに関して、全国の自治体を対象にその取り組みを調査しました。

#### 調査の趣旨

2021年の調査で、全国の自治体における制度の有無や公園ボランティア支援に関する概要を取りまとめた。今回の調査では、公園ボランティア制度のある自治体を対象に、支援に有効な情報や担い手拡大のための取り組みについてアンケートを行った。

#### 調査方法

期間：2022年7月～8月

方法：インターネットフォームおよびメール

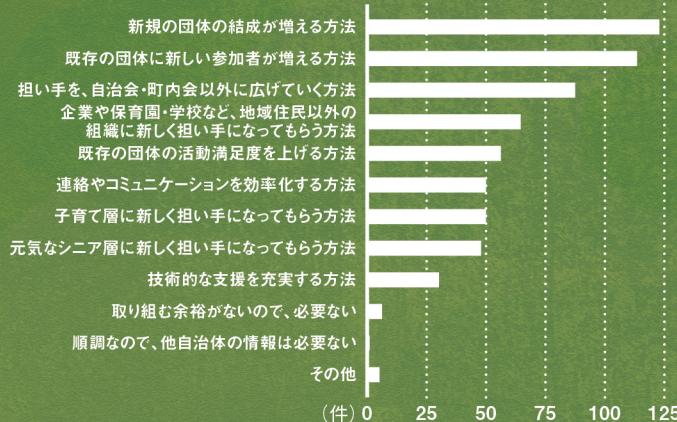
対象：公園ボランティア制度を有する全国の310自治体  
公園ボランティアに関わる担当者

#### 調査結果

回答数：230件

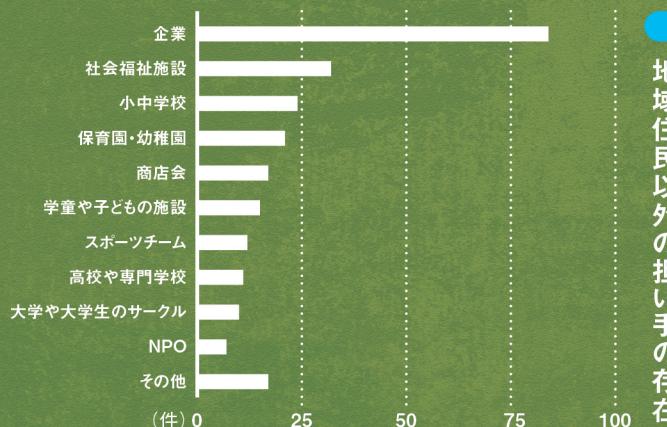
回答率：74.2%

### 公園ボランティアの活動支援について知りたいこと

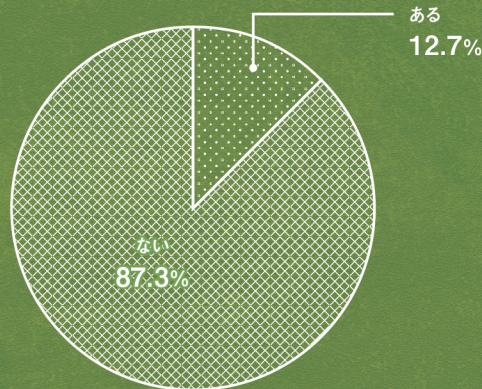


公園ボランティア活動の支援について、どんな知見やノウハウを知りたいか？を聞いたところ、半数以上が「新規の団体の結成が増える方法」を選択。「既存の団体に新しい参加者が増える方法」とともに、新しい担い手をどのように増やしていくかに注目していることがわかった。加えて、地域住民に限らない担い手層の拡大や、既存団体の活動満足度向上、連絡の効率化についてもニーズがある。高齢化等による担い手不足が深刻な問題であるといったコメントも多く見られた。

地域住民の関わりが大きい公園ボランティア。担い手を拡大する取り組みのひとつとして、地域住民以外の存在について調査した。最も多かったのは、企業(65.6%)。84自治体で企業が公園ボランティアの担い手として活動していることがわかった。次に、社会福祉施設、小中学校、保育園・幼稚園、商店会と続いた。一方で、担い手は地域住民のみで、それ以外の担い手はないという所も多い。



### 企業からの支援や 関わりについて

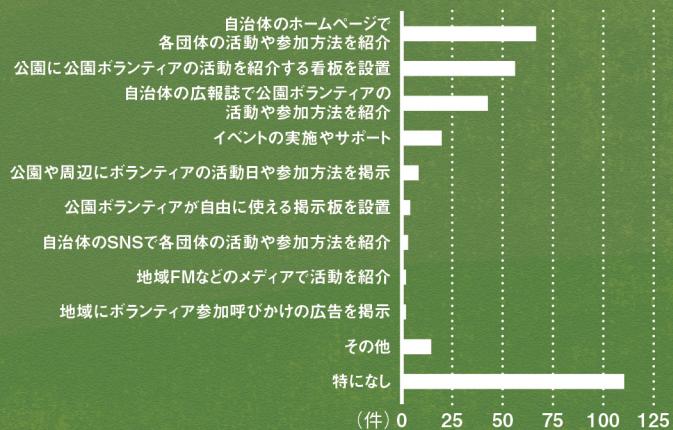


地域住民以外の担い手として最も多かった企業。担い手として特定の公園でボランティア活動を行う以外の関わり方についても調査した。企業からの支援がある場合の詳細としては:

- ・樹木や花苗などの寄付
- ・軍手やボランティア用ゴミ袋の寄付
- ・公園ベンチの寄付
- ・ベンチや遊具の塗装、施設修繕など
- ・公園ボランティア活動を支える基金への寄付 など

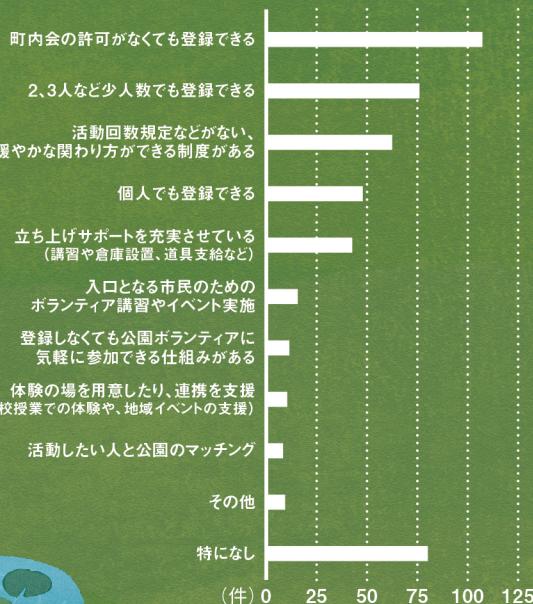
地域の企業が、さまざまな形で、地域の公園を良くするための活動を行っていることがわかる。

既存の団体への参加者を増やす取り組みとしては、「自治体のホームページで各団体の活動や参加方法を紹介する」が最も多く、「公園に活動を紹介する看板を設置」「自治体の広報誌で紹介」と続いた。自治体SNS、地域FM、バスや駅での広告など自治体主導で広報するほか、公園の掲示板やスマートフォンアプリで公園情報や愛護会の活動を担い手から発信しやすい環境を構築しているという自治体もあった。広報の充実に積極的に取り組む事例がある一方で、コロナ禍のため広報は自粛中というコメントもあった。



### 既存の団体への参加者を 増やすサポートについて

### 多様な人が担い手として参加 できるための取り組みについて



担い手拡大・公園ボランティア参加の裾野を広げる・より多様な人が担い手として参加するための取り組みとしては、「町内会の許可がなくても登録できる」が最も多く、登録人数や活動回数の規定がない緩やかな制度で活動開始へのハードルを下げている自治体が多いことがわかった。立ち上げサポートの充実や、市民ボランティア講習、体験の場づくりや連携の支援など、活動の具体的な第一歩と一緒に踏み出せる取り組みも一定数ある。スマートフォンアプリやメールを活用して、平日日中の電話連絡が難しい人でも簡単に連絡やコミュニケーションができるようにしたという例もあった。日本語、英語、中国語、韓国語、ベトナム語など多言語で案内チラシを作成し配布しているというコメントもあった。

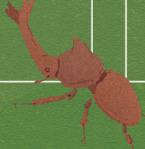


### 6 公園ボランティアに関するgood news、良かった取り組み、担当としてうれしかったこと

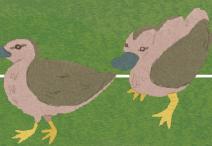
活動する公園に愛着をもつボランティアの方が、日々の公園の清掃・除草作業だけでなく、見回り・施設の破損状況等も隨時報告してもらえるので、いつも助かっています

公園ボランティア情報誌の発行・取材に  
対して、自分達の活動を知ってもら  
えるとやりがいを感じてもらえたこと、発行を楽しみにしてくれ  
る市民が増えたことも

自分が清掃している公園をきれいですね  
と褒めてもらえて、今では公園清掃が生き  
がいになっていますと、ボランティアの方  
からお聞きできたのは担当者としてうれ  
しかったです



## 公園ボランティア編



公園愛護会、公園アダプト制度ほか、さまざまな制度で行われている市民の公園ボランティアについて、

各地で活動する担い手団体を対象にその取り組みを調査をしました。

### 調査の趣旨

2021年の調査で、全国の公園ボランティアの活動内容や規模、やりがい・課題等について、概要を取りまとめた。今回の調査では、活動のノウハウを集めるべく、公園ボランティア活動を行う上でのさまざまな工夫についてアンケートを実施した。

### 調査方法

期間：2022年9月～11月

方法：アンケート用紙郵送 およびインターネットフォーム

対象：全国36自治体 2,559の公園ボランティア団体

+ インターネットによる自由参加

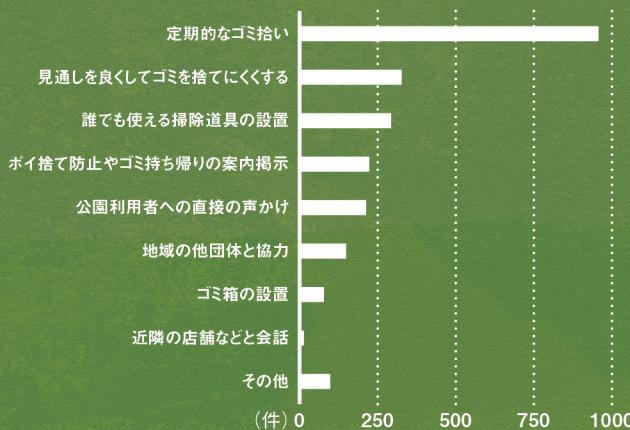
### 調査結果

回答数：1,243件

回答率：48.6%（うちインターネットからの回答 7.3%）

7

### ゴミ対策や掃除に関する工夫について

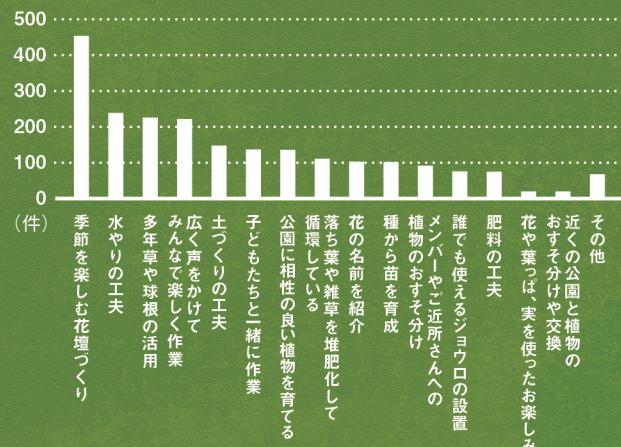


公園のゴミ対策や掃除に関する工夫としては、「定期的なゴミ拾い」が最も多く82.4%の団体が実施。「見通しを良くしてゴミを捨てにくくする」「誰でも使える掃除道具の設置」「ゴミ持ち帰りの案内掲示」「利用者への直接の声かけ」などの工夫も行われている。ゴミは見つけたらすぐに拾う、常にきれいにしておくことや、ゴミ拾いしている姿を見せることで、ゴミを捨てにくくなるというコメントも多数あった。

8

### 花壇づくりや緑育てに関する工夫していること

花や緑に関する工夫としては、「季節を楽しむ花壇づくり」が最も多く、「水やりの工夫」「多年草や球根の活用」と続いた。花好きの人が活躍し、自治体から年2-3回提供される花苗を活用する団体が多いが、多年草や宿根草・球根を活用して、植え替えの手間を削減しながら、いろいろな植物を育てたり、増えた植物をおすそ分けするという、緑のコミュニケーションが生まれているケースもみられる。ゴミのポイ捨て対策や、防犯対策として、花は有効というコメントもあった。一方で、花壇が荒らされてしまう、水場などの設備がないので難しい、花壇はない、という公園もあった。



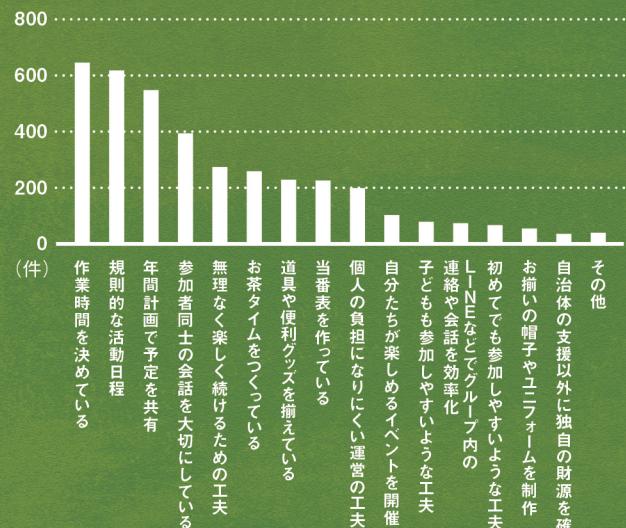


**9  
公園の除草について  
工夫していること**



除草に関する工夫としては、「定期的な除草作業」が最も多く、「刈払機など機械の導入」「除草時期の工夫」「広く声をかけてみんなで楽しく作業」と続いた。とにかくこまめに根っこから抜く、種が落ちる前に抜く、雨の後はチャンスと思って作業をする、先に少人数で機械を使って一気に草を刈った後にみんなで草を集めるといった時間差や役割の分担など、さまざまな工夫のコメントがあった。夏の暑さや、高齢化による人数不足、公園の広さに追いつかない等の課題も多いが、行政からの道具の支給や貸出、業者除草などの援助も有効のようだ。

団体の運営や楽しく活動するための工夫としては、「作業時間を決めている」が最も多く、「規則的な活動日程」「年間計画で予定を共有」と日程や時間に関する項目が上位になった。次に「参加者同士の会話を大切にしている」や「無理なく続けるための工夫」「お茶タイムをつくっている」などの、お楽しみ系の工夫が続いた。地域の人々の情報交換や交流の場になっているというコメントが多くあった。おしゃべりなど交流の時間を大切にし、季節のイベントや食事会を行っているという団体も多い。同時に、コロナ禍でお茶やお菓子を持ち帰りにしたなど、さまざまな工夫がある。無理しない、強制しない、義務化しない、遅刻早退欠席OKなど、とにかく負担が少ないようにしているというコメントも多数あった。



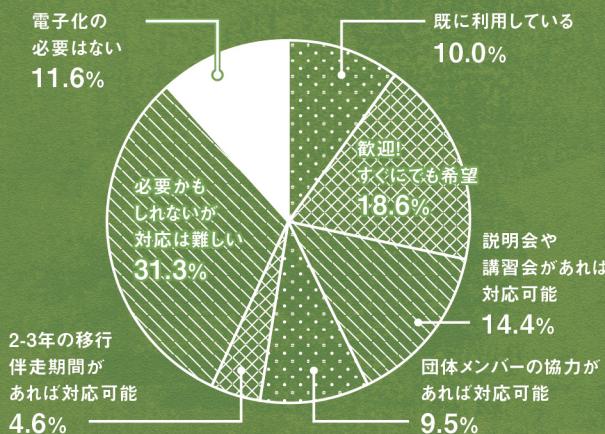
**10  
楽しく活動するために  
工夫していること**

**11  
行政との  
連絡方法について**



各団体から自治体への報告や相談・要望について、どのような連絡方法が望ましいか?を聞いた。「書類の郵送」が最も多く、「電話とFAX」の人気も高い。相談や要望をする際は、直接話したいというコメントも。時間を気にせず連絡ができ、写真などの添付もできるメールや、連絡機能に加えて既読確認や定型フォームでの入力送信などの機能もあるスマートフォンを使ったコミュニケーションも一定の支持があった。

## 活動報告書が、電子化される場合の対応について



年度末や半期に1度など、定期的に提出する活動報告書の電子化について聞いた設問。10.0%の人が「既に利用している」と回答し、18.6%が「歓迎! すぐにでも希望」と回答。何らかのサポートがあれば、全体の57.1%の人が、活動報告書の電子化に前向きであることがわかった。報告書類のペーパーレスや電子化には、賛成／反対双方にそれぞれさまざまな意見が寄せられた。高齢の扱い手が多い現状で、デジタル対応は難しいというコメントも多かった。行政担当者とのコミュニケーションの充実、扱い手拡大のために平日日中仕事をもつ人でも関わりやすい方法の必要性など、多くの声が届いた。

## 公園ボランティア実態調査2022を終えて

今年度は、全国自治体調査、公園ボランティアの扱い手アンケート共に、取り組みの工夫や知恵をお聞きし、全国の自治体や、各地の公園ボランティアの扱い手から、とても多くの声を集めることができました。活動実態や課題をまとめた2021年の調査からさらに一歩踏み込んで、より充実した活動を続けていくためのヒントが見えてきたと思います。

### ボランティアだからこそ、無理なく、楽しくが大事

地域住民が主役になり、企業や学校との協働も含め、年代や立場などより幅広く多様な人が関わることができる公園ボランティア活動。活動を続けるためには、楽しく活動すること、無理はしないことが大切だという声が多くありました。そして、活動を楽しく続けるために、さまざまな工夫がされていることもわかりました。時間を決めて区切ることや、お楽しみのお茶タイムをはじめ、具体的な工夫を重ねながら、メンバー同士の会話や、公園を中心とした地域のコミュニケーション、世代を超えた交流を大切に、多くの公園ボランティアの皆さん

地域の公園を日々守り続けていることが見えてきます。コツコツ地道な美化活動も、周囲からの「ありがとう」の言葉とともに、楽しいからこそ続けられること、無理をしないからこそ続けられることを、改めて多くの皆さんに教えていただきました。

### 事務連絡の効率化で、より濃密なコミュニケーションを

行政とボランティア団体とのコミュニケーションについても、IT化を軸に広く意見を集めることができました。公園ボランティアと行政担当者が直接話すことが、より良い公園づくりや、より充実した活動への大切なポイントであることが確認できたのと同時に、効率化できる部分の手間とコストの削減がとても重要であることが見えてきました。担当が不在で電話がつながらない、連絡が役所の開庁時間に限られるなどで、連絡に手間がかかっていた状況も、メールやスマホアプリを使えば、お互いの都合や時間を気にせずに用件を連絡しておくことができ、効率的に事務連絡ができます。また、活動報告がスマホで簡単にできることで、コ

ミュニケーションも活性化し、自治体側はボランティアの活動内容を自然に知ることができ、ボランティアは自分たちの活動がきちんと見守られ認められているという安心や喜びが生まれることも見えてきました。事務連絡を徹底的に効率化することで、捻出された時間とコストを、公園をより良くするためのコミュニケーションに充てることができるよう、有効なIT化が進めばと思います。

### より広く知られ、気軽に参加できる活動に

継続的な課題である「扱い手不足」の背景には、公園ボランティアの存在や活動が市民にあまり認知されていないことも要因の一つではないかと考えられます。地域の小さな公園が、公園ボランティアの人々の手で守られていること、そしてそれは誰でも参加できること、楽しく活動している人が年齢を問わず多くいることが、社会の当たり前になり、公園ボランティアが気軽に参加できる活動になっていくことを願い、これからも公園ボランティアの活動を応援していくこう思います。



名称／一般社団法人 みんなの公園愛護会 所在地／東京都千代田区有楽町1-2-12 KOKOビル3F

連絡先／hello@park-friends.org 代表／樋田里佳 設立年月／2020年6月

イラスト／高安恭ノ介 撮影／松村隆史

制作・デザイン／タラコデザイン株式会社 ディレクション／株式会社空気読み

